

投稿	北アルプス 初日岳 梅池～蓮華温泉				
山名		報告者	渡辺 昭二		
この山のセールスポイント	6つ。山ふかく、滑遊の旅。 (地形図参照)				
コース及び タイム	4月13日(金) 天候(晴)	起床5:30～ゴンドラ駅8:35～ゴンドラ終点9:05～ 天狗原11:04～滑降開始11:50～蓮華温泉14:00～ テント場14:30			
登り標高差	1700m～2200m ≈ 500m	体力度	1 2 ③ 4 5 6		
滑降標高差	2200m～1470m ≈ 730m	技術度	1 2 ③ 4 5 6		
ザック重量	約18kg	展望度	1 2 3 4 5 ⑥		
CL	後藤隆徳 (54)	今度は空荷で振子沢を滑りたい			
会計 食料	加藤秀子 (51)	荷物の重さと雪質が問題			
SL	長岡浩一 (41)	17kgでも上手い人は上手い			
	渡辺昭二 (39)	あつたかいな 温泉みたい 仲間の気持。			
第二 日目	<p>ゴンドラに揺られながらの白馬方面の展望は見事だ。天気が良いにも関わらず、気持は重い。朝気がついたのだが三段式のポールのまん中が無く、1本での対応となつたのだ。(後日確認すると中にはまり込んでいただけだった。)道具への不慣れさと、冷静さに欠けた心理状態を思うとても恥ずかしい。</p> <p>慣れないスプリットボードでのシール登高の大不安は大変大きいのだが、12年前の夏に行った蓮華温泉そして朝日岳への憧れが勝りここまで来てしまった。あのときはオコジョとはちあわせ目があり、ハクサンコザクラに心慰められ、温泉に感動したのだった。</p> <p>樹林帯を登り始めるとすぐに静けさに包まれる。皆は、はるか先。壺足なら目をつぶっても歩ける様な所が、シール登高では恐怖でふるえおののく。クトーの周辺には15センチ程の高さの雪がダンゴ状に付き、雪</p>				

→ 4/12(木・雨)・下土狩13:00～梅池高原17:30 (体育馆の屋根の下にテント)

面との接着力はしだいに増していき、最後には足も上がらなくなる。悪い夢が終わり休憩している皆さんに追い付くと、後藤さんが道しるべの竹をポールの長さ程に折ってくださる。ポールが両手にあるありがたさを痛感する。天狗原への登りなど、1本のポールではとても登れなかつた。

天狗原は強い風に包まれ休憩していても体温を奪われる。乗鞍岳を登る人陰はなかなか進まない。まだ12時前なので乗鞍から滑るべく登ろうとするがあまりの強風に断念する。

滑り出しあはねたウインドクラストの雪面とザックの重さに翻弄され尻餅をつき、おしりが2つに破けそうになる。ここでもボードのセットに手間どり僕が遅れるので、皆がどのように滑ったのかは定かではない。

乗鞍を左に見ながら振子沢へ滑り込む。クラストしていたり柔らかだったり、あるいは緩斜面でボードをはずしたり大忙し。皆も楽しく格闘していた。

標高2000m位の台地状の場所で大休止。のどを潤す。ボードを外すと膝くらいまで沈み込む。乗鞍を左後方に振返ると美味しそうな急斜面が輝いていた。気温も上昇し、雪も腐ってきていた。

中ノ沢へ移る手前から壺足で喘ぎ、トラバース。小屋迄はほとんど修行の様な物。皆はスキーです一いすい。それでも小屋へ着いた時にはうれしさが込み上げてきた。お気に入りのボードとずっと一緒なのだから。

憧れの小屋へ入り、加藤さんが水場を聞くが小屋の方は素っ気無い態度。（水をいただけることは事前に電話で確認済。）だまって見ていると加藤さんが遠慮しながら3・4回同じ事を訪ねる。と、突然態度が変わり場所を教えてくれた。山深く入って突然下界に引き戻された様なこの対応には、言葉も出なかった。後藤さんは、お金は払わせていただくからトイレを使わせて欲しいと頼んだにも関わらず断わられ、本当にがつかりしていた。いや、怒っていた。今思えば『ふざけるな！』と皆で言うべきだったのかもしれない。

沈んだ気持で、小屋で購入したビールと日本酒をザックに詰め込みテント場へ。後藤さんがダッシュし、木造の小さい小屋の前へ。そこは地熱で雪が解けていた。テントを張るためスコップで雪掻き。3m程の雪壁の中にテントを張る。マメな加藤さんは階段を器用に作った。風も無く、アスファルトの地面は乾いて最高の場所だった。

加藤さんと長岡さんが水を汲んで戻ってきて、いよいよ夕食の支度。後藤さんと長岡さんと僕がアルコール燃料を大量に投入している間、加藤さんの作るデミグラソースの香りがテントの中に満たされホッとする。まるで家にいるみたいだ。ソースの中には大きいハンバーグとお野菜がいっぱい。出発前夜12時まで支度にかかったそうだ。あまりの美味しさに長岡さんが作り方を尋ねると、「今度つくってあげる。」と、なんとあたたかい方なのだろう。人のための苦労を惜しまないその心意気にぼくらはただただ感謝。おかげで明日への力がみなぎるのだった。

就寝時、軽量化のため小さいザックで来たかった僕はマットを持って来なかつた。長岡さんが心配してフライシートをザックから出してくれ、くるまって眠ることに。また、

風上の端に寝た長岡さんはテントに押されて余り眠れなかつたそうだ。合掌！

あらゆる面で皆に助けられて今日という日が終わつた。



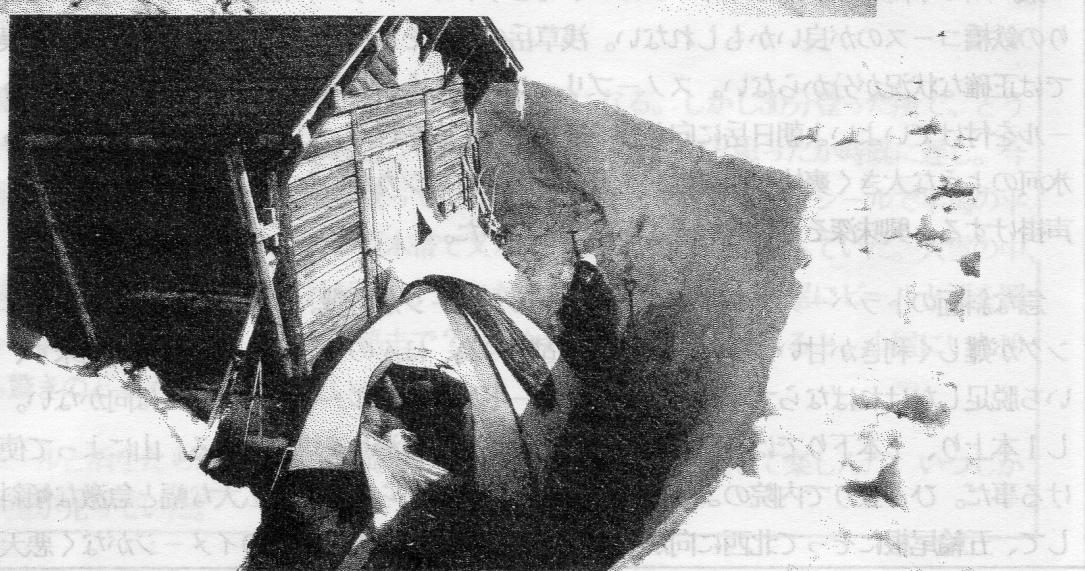


(下) (中) (上)
天狗ヶ原へ登る
同滑振子沢上部コーキチウ
ヒテコの滑り



(下)(中)(上)

振子沢中部にて
「下部ショージの滑り
松連のテント



山名	朝日岳(2418m)	報告者	後藤 隆徳
この山のセールスポイント	誰も行かないロングルートと 「夢の大斜面」		
4月14日(土) コース及びタイム	起床4:00/5:30 ~平馬の平 6:00 ~瀬戸川ブリッジ 6:35~白高地沢7:40~朝日岳12:20 ~瀬戸川14:40 (30分ロス) ~B.C 17:20		
天候	晴のち曇のち雪	標高差	白高地沢 ~ 朝日岳 = 1218m △瀬戸川 1200 ~ 蓮華温泉 = 370m 蓮華温泉 1100 ~ 瀬戸川 = 300m ▼朝日岳 1470 ~ 瀬戸川鉄橋 = 1318m 2418 ————— 1100
体力度	1・2・3・4・(5)・6		
技術度	1・2・3・4・(5)・6		
展望度	1・2・3・4・5・(6)		
後藤隆徳	54	日本にはまだこんな凄い山ある	
長岡浩一	41	遠いアヒ 大きいアヒ 美しいアヒ	
渡辺昭二	39	ギヤが地獄でイヤ~	
加藤秀子	52	一人未登頂でカバチタレ	
二日目			
昨日一日吹きまくっていた強風も、さすがに夜半静かになった。しかし、2m近い雪壁に囲まれたテン場だったが全く関係なく、風上に寝た長岡は充分休めなかったようだ。天気は良く4:30に明るくなった。			
まだ誰も起きていない蓮華温泉前を通り、ブナの巨木達をぬって平馬の平に向かう。大きな大きなブナに嬉しくなってしまう。朝の冷えで滑りは極めて快適。平馬の平から歩きで滝見尾根を越えて瀬戸川に下降する。物凄い急斜面でアイゼン・ピッケルを使用。瀬戸川のスノーブリッジを3回渡り、対岸の尾根を越えてようやく白高地沢に着いた。			
瀬戸川の下降は、かなりヤバいルートでピッケル・アイゼンは必携である。これでは南回りの鉄橋コースのが良いかもしれない。浅草岳の時もそうだったが、山スキールート図集だけでは正確な状況が分からぬ。スノーブリッジも、もう少し時期が遅いと渡れないだろう。シールを付けていよいよ朝日岳に向かう。概ね沢の右岸を行く。ここもブナが美しい所だった。氷河のような大きく爽快な白高地沢を登る。途中カモシカがいた。加トーが『ヤッホー』とお声掛けすると興味深そうにジッとこちらを見ていた。			
急な斜面のトラバースでスプリットボードのショージが苦戦。ボードは幅が広い分、エッジングが難しく利きが甘いようだ。また両足固定の為、ほんのチョットした登りが出来ず、いちいち脱足しなければならず手間が掛かる。ボードは多様なルートのツアーハンマードには向かない。しかし1本上り、1本下りでは重荷も何のその。サイコーの滑りを堪能できる。山によって使い分ける事だ。ひと登りで内院のような所に着いた。此処からルートは広大な幅と急激な傾斜を増して、五輪尾根にそって北西に向かっていく。あまりの広大さに沢のイメージがなく悪天候時			

には間違えそう。加ト一が不調だった。珍しい事もある。3月、Hと乗鞍へ行った以来だ。とにかくゆっくり来てもらう。北のコルに上り稜線に出ると風が一段と強まった。いつしか空は鉛色になっていた。ガチガチのアイスバーンを斜登行。ショージのボードが全く登れず危険なのでアイゼンに切り替えさせる。頂上直下50mで私もアイゼンにかえた。スキーで登っても下に加ト一がいるのでスキーで下れないからだ。

頂上からの滑降は長岡にまかせた。ショージが來たので一緒に行く。長岡も直下10mでアイゼン歩行。待望の頂上は広い広い雪原だった。立派な看板と標柱があった。再び晴れて360度の展望。黒部川の向こうに剣が輝いていた。3人で柳ちゃんの黙禱。私は久し振りの雪の剣を仰ぎ思わず涙してしまった。ショージと加ト一が見える所まで下り、滑降すると伝える。加ト一は這い松の中で待機していた。長岡は頂上からバリバリのアイスバーンをこなし、2250mの我々の所に來た。さてこれで4人揃った。

此処からはいよいよ「岳滑降」だア～。まずショージが先陣をきってナダレ込む。次に長岡、加トーはサイドから攻め込む。そしてシンガリは私だが、旧雪は意外に硬く不快適。右に横断して新雪帯に入ると快適、快適。カールの底まで一気に滑り込んだ。皆の顔が喜びでフニャフニヤに歪んでいる。何という至福。ここまでヤッてきた甲斐があった。しかし本当に良かったのは、ここから内院までの急傾斜だった。内院で1本と思ったが風が強いため、一気に今朝カモシカを見た所まで下り、今付けたシュプールを眺めながらビールでカンパ～イ。火照った身体にサイコーのビールだった。

” シュプールを 眺めいただく ビールかな ”

再び瀬戸川を目指す。帰路は鉄橋経由だ。それにしても、往復とも誰一人会わない。蓮華温泉に60名程泊まったというのに。理由は後で分かった。長岡と私の「超完璧」な地区読みでピタリタピッタシ瀬戸川へ滑り込む。今回はイイ地区読みをしているゾ。と思ったら1時間後とんでもない所を歩いていた！瀬戸川で日本海まで行く2人に初めて会い、シールを付け再び平馬の平に登り返す。

この頃からチラチラ白い物が落ち、やがて本格的な雪になる。しかし30分登った所で、どうも地形がおかしい。歩いている所は顯著な尾根の上だった。ヤッたと思ったか時既に遅し。今朝、平馬の平から乗越した滝見尾根を登っていたのだ。（カバチタレ～！）シールで平馬の平に滑り、再び温泉を目指す。例のブナの巨木帯で又カモシカに会う。身ごもっていた。大雪の中、30分遅れでB.C.に着いた。往復12Hだった。これが誰も行かないワケ。小屋にビールと酒を買いに行った加ト一の話では、今日は何処まで？と聞かれ『朝日岳』と答えると、小屋にいた10数人から驚きのどよめきが起きたという。

夜はビールと酒をたらふく飲み、長岡のデジカメで今日の絵を再現して楽しんだ。いつしか雪は止み星が光っていた。

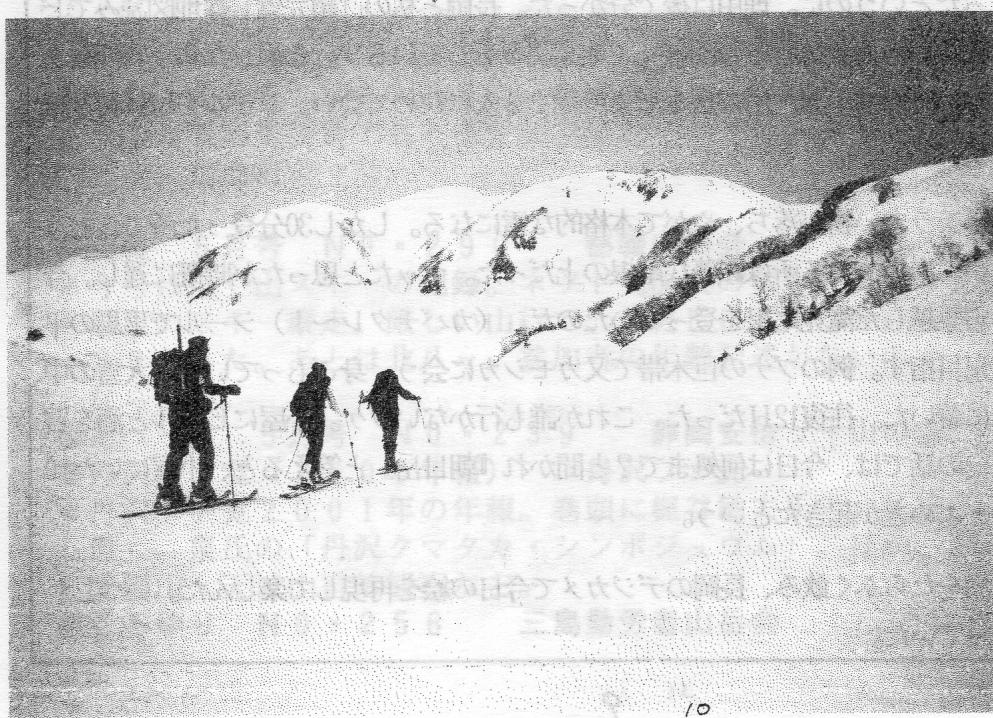
金の谷の雪原の斜面に計画的走りのスキー

(上) 懶戸川のスイブリジ

(中)

(下)

白高地沢を渡る



(上)

右の奥が朝日岳頂上
「夢の大斜面」の加ト一の滑り





氷河のよだな白高地沢

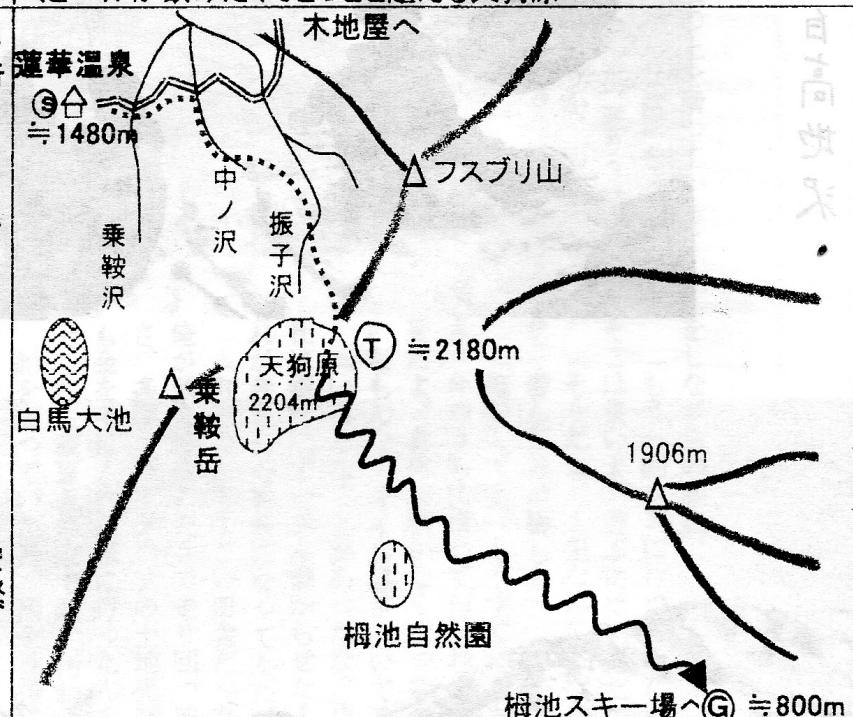


すむ駅車場に1度ー、J鉄道すう一チルネエ、ラスでテエて式よ出でてくJや。るいも重荷の
。みで軽駅、J/J良良は秀文美の中駆入ケ森甲中姫、りんこコ監の駆十。て駆づぐ

投稿

山名	北アルプス 朝日岳 2418m 3日目			報告者	長岡 浩一
01年4月15日(日)	起床4:00～テント撤収・出発6:00～ウンチ取りに戻る6:30～7:10～天狗原10:05～10:20				
コース及びタイム	～梅池スキー場カフェテラス11:15～11:45～駐車場12:20～十郎の湯15:00～下土狩21:00				
標高差	△S 約1480m	～ T 約2180m	≒ 700m	体力度	1・2・③・4・5・6
	▼T 約2180m	～ G 約800m	≒ 1380m	技術度	1・2・③・4・5・6
走行距離	梅池スキー場	～ 下土狩	≒ km	展望度	1・2・3・4・⑤・6
参加者	タカノリ	クソを持ち帰った加藤に感謝！			
	ヒデコ	往きも帰りも荷物の重さは変わらない。どうして？			
	Shōji	シール登行のウラミを晴らす滑りかな ビールも入って極楽極楽。			
	ko-1	朝日岳の帰り道、早くビールが飲みたくてとっとと越える天狗原！			

朝食のラーメンライスをかきこみ、テントを撤収すると、雪倉岳が朝焼けで赤く染まり、美しい。今回のテント場は、物置小屋？の前の1.5坪ほどのアスファルト(ここだけ地熱でもあるのか雪が無い)にしたが、小屋と2.5mほどの雪の壁に囲まれ、暖かくとても居心地が良かった。蓮華温泉で買った大量のビールと酒の空容器を小屋で引き取ってもらい、林道を戻る。林道といつても雪の斜面になっていて、ガチガチに凍っており、スキーアイゼンもささらない。乗鞍沢にかかる橋に降りる所では緊張する。橋の上は、かまぼこのように雪がてんこ盛りになっていて怖い。



中ノ沢から天狗原へ向かって登りにかかる。歩き出して30分たった頃、小屋の入り口に、ビールの空き缶と一緒にうっかりウンチ(計7回分約1kg)の袋を置いてきてしまったことに気が付き、加藤さんがとりに戻る。蓮華温泉では、テント泊の人にはトイレを使わせず(外のトイレは雪で使えない)、その辺でしてくれと言う。今回はテント泊の人は少なかったが、5月連休の後には蓮華温泉の回りは、クソだらけだろう。

中ノ沢から振子沢へうつり、高度を上げる。振り返れば、雪倉から朝日が真っ白に輝いている。また来いよと言っているように。朝日岳は遠いからもう5年くらいは来る気がしない。白馬乗鞍は雪煙をあげている。天狗原も風が強いだろう。若いテレマークの10人以上のパーティがいた。大勢で楽しそうだ。蓮華温泉だけ往復したようだ。往きで一緒だった超ミニスキー(50cm程)の小太りのおじさんはつぼ足で登っているが、これが早い。昨日は雪倉へ行ったそうだ。

天狗原手前の平らで左のフスピリ山から来ている尾根に上がると、頸城の山々がきれいに見えている。広々として気持ちのいいところだ。天狗原を少し巻きぎみに登り、その一角に出た。あとは下りのみ。鹿島槍まで良く見える。風は意外に静かだ。スプリット状態でのチョイ下りや凍った急登に苦労して遅れた昭チャンを待ちながら滑降準備をする。

天狗原の下りは重い腐れ雪。大勢の登りの人たちに見られながら、格好良くとは行かない。往きと大して変わらない重さのリュックを背負っている。足も疲れていて、ターンの後半はつぶされそうになる。梅池自然園のあたりでゴンドラの駅舎が目に入り、もうゲレンデかと間違える。前来た時(といっても10年以上前か)にはなかったから。疲れているため安全を考え、長い林道を下る。ゲレンデに出たらカフェテラスで、エネルギー?を補給し、一気に駐車場まで滑って終了。十郎の湯につかり、途中甲府で入院中の美女をお見舞いし、帰静する。



悪雪ヨの梅池を滑る
上からショージ、コータチ。
70